

氏名	山本 英子	部署	看護学科	職名	准教授
研究分野	母性看護学・助産学				
学位	修士（保健学）				
学歴	2006年群馬大学大学院医学系研究科博士前期課程				
経歴	2006年埼玉県立大学保健医療福祉学部助手、07年埼玉県立大学保健医療福祉学部助教、14年埼玉県立大学保健医療福祉学部講師、18年埼玉県立大学保健医療福祉学部准教授				
所属学会（役職）	日本看護科学学会、日本助産学会、日本母性看護学会、日本母性衛生学会、日本思春期学会、日本新生児看護学会、日本小児保健協会、埼玉県立大学保健医療福祉科学学会、千葉看護学会、日本看護シミュレーションラーニング学会				

【2020年度実績】

1. 研究業績						
(1) 著作						
	著作の名称	単・共	ISBN	発行所、全ページ数	著者、編者名	発行等年月
1	2020年第1回看護師国師合格チャレンジテスト解答・解説書	共著	なし	株式会社学研メディカル秀潤社、P:269	看護師国師合格チャレンジテスト編集委員会	2020.4
2	2020年第2回看護師国師合格チャレンジテスト解答・解説書	共著	なし	株式会社学研メディカル秀潤社、P:225	看護師国師合格チャレンジテスト編集委員会	2020.8
3	2020年第3回看護師国師合格チャレンジテスト解答・解説書	共著	なし	株式会社学研メディカル秀潤社、P:233	看護師国師合格チャレンジテスト編集委員会	2020.11
(2) 論文						
	論文の名称	単・共	査読	IF対象誌	雑誌名、巻（号）、開始-終了ページ	著者、編者名
1	該当なし					
(3) 学会発表						
	学会発表の演題	単・共		学会名、開催都市	発表者（発表者は○印）	発表等年月
1	就労妊婦が抱く身体活動への思いと行動の実際	共同		第40回日本看護科学学会、web開催	○山本英子、飯岡由紀子	2020.12
2	遠隔演習における動画教材を活用した助産過程の展開	共同		第2回日本看護シミュレーションラーニング学会、web開催	○山本英子、兼宗美幸、鈴木幸子	2021.2
3	模擬産婦が分娩第1期から第2期を演じるリアルな分娩助産演習の工夫	共同		第2回日本看護シミュレーションラーニング学会、web開催	○東原亜希子、山本英子、鈴木幸子	2021.2
4	助産学生対象の新生児ケアの演習におけるCOVID-19感染対策および教育上の工夫	共同		第35回日本助産学会、web開催	○浅井宏美、山本英子、東原亜希子、森田亜希子、他6名	2021.3
5	分娩助産実習前のICTを活用した遠隔授業とCOVID-19感染対策を講じた演習の工夫	共同		第35回日本助産学会、web開催	○東原亜希子、兼宗美幸、青木恭子、山本英子、他6名	2021.3
6	Web会議ツールを活用した妊産褥婦に対する遠隔実習の実践	共同		第35回日本助産学会、web開催	○森田亜希子、鈴木幸子、兼宗美幸、東原亜希子、千葉真希子、山本英子、他4名	2021.3
(4) その他						
	名称	単・共		発表場所等	発表者（発表者は○印）	発表等年月
1	該当なし					
2. 競争的資金等の研究						
	競争的資金等の名称			研究名	研究代表者・研究分担者の別	研究期間
1	文部科学省・日本学術振興会科学研究費補助金（基盤研究C）			運動行動変容ステージを基盤とした妊婦の身体活動を促進する看護介入の開発	研究代表者	2018.4～2021.3

3. 教育業績				
(1) 講義				
	講義の名称	科目責任者	コマ数	概要（教育内容・方法等において工夫した点）
1	母性看護学Ⅱ	○	5	視聴覚教材等を用いて、産褥期・育児期および新生児期にある対象者（母子・家族）のイメージ化や理解が深まるように講義を行った。また、講義と演習、実習の連続性を意識した授業構成とした。
2	周産期のケア		1	母乳育児支援について、現状（妊娠期から育児期の調査データ）、解剖生理、ガイドライン、研究結果、臨床の実際等も含め講義を行った。とくに、エモーショナルサポートの重要性と理解が深まるよう実施した。
3	分娩期のケア		2	助産師としてのキャリアデザインを意識し、診断・ケア技術能力が向上するように。また、ガイドラインや研究結果、臨床での実際の説明も含め講義を行った。
(2) 演習				
	演習の名称	科目責任者	コマ数	概要（教育内容・方法等において工夫した点）
1	母性看護学Ⅱ	○	8	看護過程について、自己学習やリモートでのグループ討議を深められるよう支援した。各グループ間での情報共有により母性看護学領域における看護過程の展開への理解が深められるよう意図的に関わった。
2	周産期のケア		5	妊娠健康診査や保健教育ではロールプレイを活用し、対象理解や対象者（妊婦）からの視点でも助産ケアを考察でき、さらに実践を省察できるように関わった。
3	分娩期のケア		28	診断・ケア技術、コミュニケーション、チームワーク、評価(リフレクション)の能力が向上するよう、シミュレーション教育を行った。コロナ禍で制限はあったが、自己学習用DVDの視聴した上で、リモートで質疑応答などのインタラクティブな学習機会を設けた。感染予防対策を講じた上での実習室の開放・指導担当教員の配置をし自己練習・学習の環境を整え短期間での技術習得を支援した。
(3) 実習				
	実習の名称	科目責任者	学外実習：期間 学内実習：コマ数	概要（教育内容・方法等において工夫した点）
1	母性看護学実習		2020.5～2020.6	3年次生を対象に、リモートで代替実習の実習指導を行った。産褥期・新生児期の変化、母乳育児支援、母子相互作用・愛着形成、退院後の生活について、対象理解が深まるよう支援した。
2	総合実習		2020.7	4年次生を対象に、妊娠期・産褥期・新生児期にある対象の包括的な理解や、個別性の高い健康教育の実践に向けて、とくに支援した。
3	助産学実習Ⅱ	○	2020.8～2020.10	コロナ禍により実習方法(代替実習方法を含む)を検討し、施設と調整し実施した。2施設の産科病棟(新規施設含)にて、4年次生助産系学生6名の実習指導を行った。入院の判断から分娩介助まで実施し、継続性と個別性の視点をもてるよう支援した。また、NICU実習(施設・代替実習)全般について、調整を行った。
4	IPW実習		2020.10	4年次生5名の教員ファシリテータとして、遠隔実習での積極的な参加、活発な討議、効果的なリフレクションができるよう支援した。とくに、紙面事例であったが、リアルに対象者をイメージできるよう関わった。
(4) 論文指導				
	対象	期間	主指導・副指導の別及び指導人数	
1	卒業研究	2020.3～2021.1	主指導	4 副指導 名
(5) その他				
	名称	期間	概要（教育内容・方法等において工夫した点）	
1	2021年版分娩介助手順と動画教材作成	2020.11～2021.3	エビデンスや臨床の現状をふまえ、手順の変更した。新手順の動画教材を作成し、遠隔での自己学習にも有効活用できるように工夫した。	

4. 社会貢献活動				
(1) 講演会、研修会、公開講座等の講師				
	講演会、研修会、公開講座等の名称	主催	講演、研修、公開講座等のテーマ	開催年月
1	助産学校 非常勤講師	晃陽看護栄養専門学校	助産診断・技術学学（分娩期・新生児期アセスメントと看護）4コマ担当	2020.8
(2) 国、自治体、学術団体等における委員等				
	国、自治体、学術団体等の名称	委員等の名称	任期	
1	一般社団法人 日本母性看護学会	選挙管理委員	2019.2～現在	
2	埼玉県看護協会 助産師職能委員会	委員	2020.6～現在	
3	越谷市男女共同参画推進委員会	委員（2019.7～会長）	2017.7～現在	
4	埼玉県立春日部女子高等学校	学校評議員	2018.4～現在	
(3) ジャーナリズムでの発言				
	メディア等の名称	内容	年月	
1	該当なし			
(4) その他				
	項目	相手方等	内容	期間
1	該当なし			
5. 学内運営				
	項目	内容	期間	
1	全学的委員会及びセンター業務等	専門職連携推進部会（IPW総合課程：IPW実習担当、地域窓口：さいたま・県央）	2019.4～現在	
2	全学的委員会及びセンター業務等	専門職連携基礎研修担当	2021.2	
3	学科等における委員会等	国家試験対策プロジェクトメンバー	2018.4～現在	
4	該当なし	ソフトボールサークルWSSC顧問	2016.4～現在	
5	該当なし	車いすバスケットボールサークルSPRED顧問	2020.4～現在	
6	該当なし	看護学科2年次生担任	2019.4～現在	
6. 受賞（研究、教育、社会貢献活動に関するもの）				
	受賞名	主催	受賞年月	
1	該当なし			
7. 特許の取得				
	特許名	特許番号	登録年月	
1	該当なし			
8. 特記事項				
1	該当なし			